

1 策定の趣旨

(1) 策定の目的

長野駅の東口地下駐車場、善光寺口駐車場及び東口駐車場は、長野駅及び周辺施設の利用者の利便性や駐車難・道路混雑の解消のため設置されました。今後、施設・設備の老朽化に伴う更新投資の増大が予想されます。こうした中で健全運営を図るため、長野市駐車場事業の投資と財政の両面から今後の経営の方向性を明らかにする「経営戦略」を策定します。

(2) 計画期間

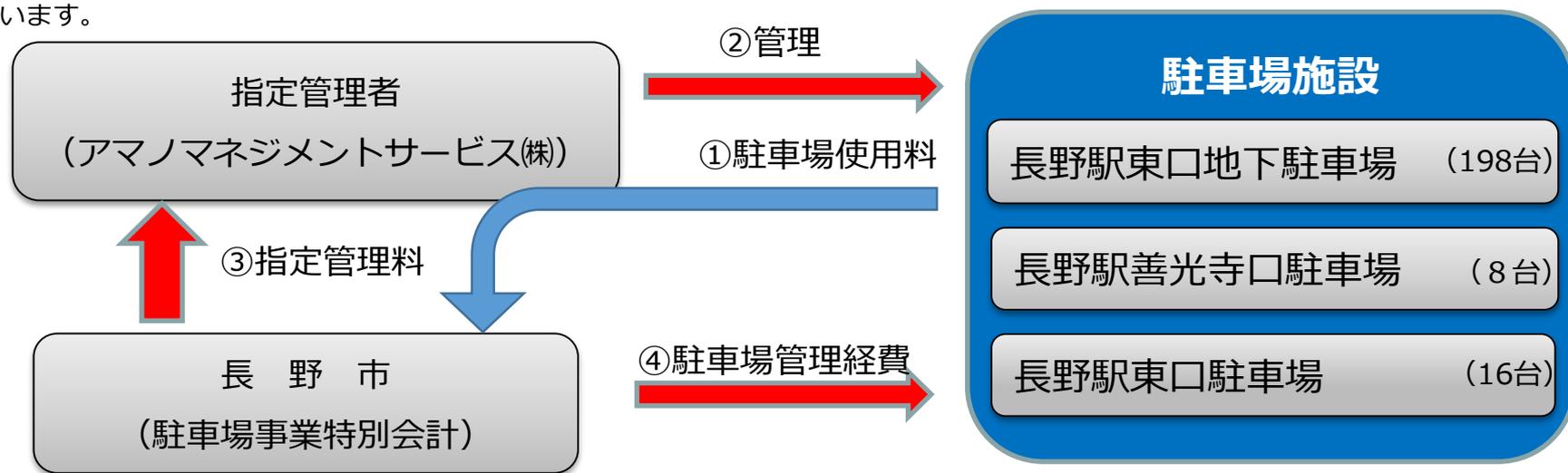
令和4年度から令和13年度までの10年間を計画期間とします。

2 事業概要

(1) 施設の運営・管理

駐車場整備事業は、「長野駅東口地下駐車場」と「長野駅善光寺口駐車場」、及び「長野駅東口駐車場」の運営を指定管理者制度によって行っています。

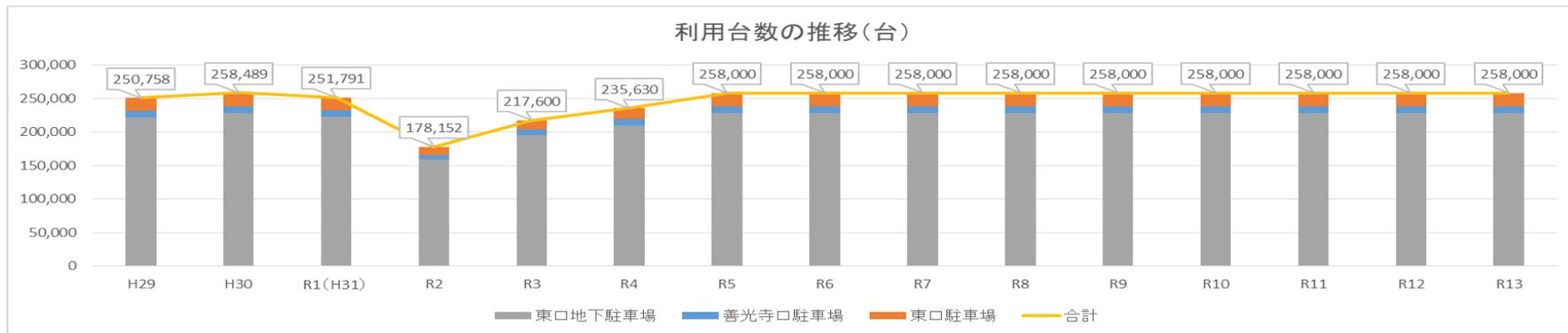
駐車場料金の収入は指定管理者が徴収し市へ収納します（代行制）。市は協定書に基づき指定管理者へ「指定管理料」を支払います。



3 将来の事業環境

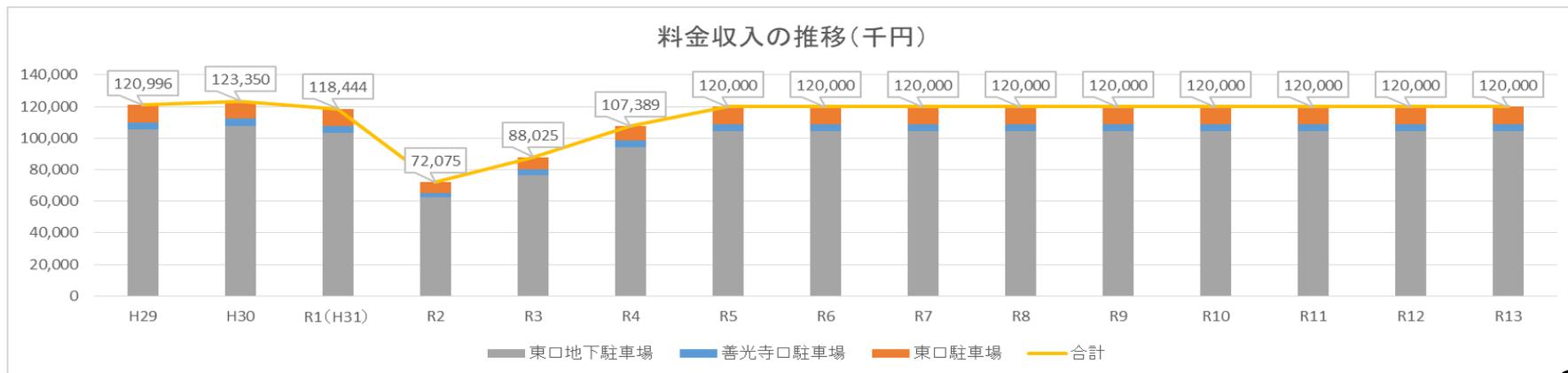
(1) 駐車場需要の見通し

利用台数は、利用台数は年間約25万台で推移していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、年間利用台数17万8千台と例年の7割程度にとどまりました。現在は少しずつ回復傾向にあり、令和4年は善光寺の御開帳など観光需要が増加し、令和5年度には平成30年度並みの水準に回復する見込みです。



(2) 料金収入の見通し

使用料収入は、駐車場3カ所の合計で約1億2千万円程度で推移していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、使用料収入7千2百万円と例年の6割程度にとどまりました。現在は少しずつ回復傾向にあり、令和4年は善光寺の御開帳など観光需要が増加し、令和5年度には平成30年度並みの水準に回復する見込みです。



4 経営の基本方針

長野駅及び周辺施設の利用者の利便性や駐車難・道路混雑を解消することで、道路交通の円滑化を図り、まちなかの賑わい創出と経済の活性化に寄与していきます。

公営企業の基本原則である独立採算を図り、運営については指定管理者による効率的な管理運営を引き続き進めます。

施設の維持管理については、東口地下駐車場の老朽化に伴い改修が予想されます。大規模改修等について具体的な検討を進めていきます。

5 投資・財政計画（収支計画）

（1）投資について

目標

東口地下駐車場の施設長寿命化

東口地下駐車場は供用開始から24年が経過し、施設・設備の老朽化により修繕や更新が必要となるので、計画的に改修を進めていきます。また、脱炭素社会に向けた電気自動車の充電設備についても整備方法等を検討し進めていきます。

指定管理者と連携した適切な維持管理と並行し、緊急性・必要性による優先度を考慮の上、投資の平準化を図ります。

主な投資計画については次のとおり（総額 約1億2100万円）

- ・非常用発電装置更新
- ・中央監視システム更新
- ・二酸化炭素センサー更新
- ・給気・排気ファン オーバーホール
- ・駐車場満空制御装置更新
- ・電気自動車用充電設備設置

（2）財政について

目標

独立採算を基本原則として、安定運営に努める

独立採算を基本原則として、安定運営に努め、経営戦略の対象期間中の更新財源を確保します。

収支の見通し(単位:千円)

